

新生 J R 東労組運動を破壊し、分裂策動を行なう

組織破壊者を許さない盛岡地本青年部見解

盛岡地本青年部は、分裂策動へと突き進む、組織破壊者を断固として許さない。

この間、彼らが行なってきた行為は、18春闘の「大敗北総括」や真実から目を背け、ウソやゴマカシで青年部員に不安と動揺を招いてきた。

2019年8月27日に開催された、「本部青年部第34回定期委員会」においては、委員の選出方法に関して「異議申し立て」の提出、さらには「議長選挙」や「5件の修正動議提出」をすることで大会を妨害し、各職場での実践や現実などを共有し合い1年間の方針を決定する大事な場を破壊した。

また、定期委員会の委員名簿を、誰が見ているかもわからないHPにあげ、さらには名簿が5ちゃんねるに拡散するなど、委員の個人情報が見せられた。これは仲間を売る行為であり、謝罪をしても許されるものではない。

20春闘においては、本部の方針とは違う「所定昇給額を算出基礎としないベア」を求め、独自の方針を打ち出した。その中で「東京の青年部員600名の総意だ」と偽り、あたかも職場からの声であるかのような無責任な発言をし、青年部員を盾とした。

現在、東京・水戸・八王子地本は情報誌を活用し、真実とは異なった情報で本部批判を繰り返し、青年部員を混乱させている。また、一部職場では「JR東労組に残るのか」「分裂した新たな組織に行くのか」「組合を脱退するのか」という三択を迫り、分裂組織へと誘導している。あれほど第三者機関を活用し、組合員を裁判に立たせ、不当労働行為を止めるという無責任な方針を立てておきながらも新労組立ち上げに向け分裂策動をする様は、組織破壊以外のなにものでもない。

未だに18春闘の大敗北総括に向き合わず、反省すらしない彼らに対し、各種会議の場や電話を活用し、指摘と抗議をしてきた。誤った情報に惑わされ、振り回され、不幸な道へ進んでいく仲間をつくらないためだ。

しかしながら、彼らは指摘や抗議から逃げ、挙げ句の果てには2020年1月24日に開催された第6回中央常任委員会を、何の連絡もせず無断で欠席をした。青年部員の代表である立場にも関わらず、任を放棄することはリーダーとしての資質を欠くものであり、青年部員を見殺しにする行為だ。そんな彼らが指揮をとる新組織に未来もなければ、青年部員を守ることは出来るわけがない。

盛岡地本青年部は、18春闘を「大敗北」と総括し、失ってしまった多くの仲間の信頼を取り戻すべく、青年部員の声をもとに、あたたかみのある組織を目指し運動をつくりだしてきた。これからも仲間の皆さんに寄り添い、悩みを共有し、私たちの明るい未来に向けて共に道を切り拓いていく。

未来のない、不安を煽るだけの分裂組織からの勧誘を断固拒否し、組織破壊者とは決別し、共に新生JR東労組運動をつくっていこう！

2020年1月27日

東日本旅客鉄道労働組合盛岡地方本部青年部